南丹家畜衛生情報 NO.１９　　令和６年９月発行

冬に備えて呼吸器病を予防しましょう！！

牛伝染性鼻気管炎や牛 RS ウイルス病は、呼吸器病のほか、流産や繁殖障害が発生することもあります。呼吸器病６種混合ワクチンを接種して、冬季に備えましょう！

☆ 牛伝染性鼻気管炎（IBR）

- 牛ヘルペスウイルスによって起こる伝染病で、**発熱**、**鼻汁**（水様性～膿性）、**下痢**、**結膜炎（瞼が腫れる）**、**外陰部・膣の炎症**、**突然の乳量低下**など、様々な症状が認められます。
- 妊娠牛に感染すると、**流産**が発生することもあります。
- **一度感染すると、生涯にわたり体内にウイルスが潜伏する**ので、回復した後も輸送や分娩のストレス等により、再発する恐れがあります。
- 致死率は高くありませんが、細菌の二次感染で症状が悪化しやすく、侵入後は牛舎内にまん延しやすいため、**経済的ダメージが大きく**なります。
- 毎年、北海道を中心に、約１０～４０頭の発生が確認されています。
- **管内でも散発的な発生があります。**

☆牛ウイルス性下痢（BVD １型と２型）

●**発熱・下痢**などの症状がみられるほか、**異常産や繁殖障害など**生産性の低下につながります。

● 妊娠初期（１００日齢前後まで）に感染すると、生まれてくる子牛は**持続感染牛となり、生涯にわたってウイルスを排出し続けます。**

● 持続感染牛が存在すると、農場内でウイルスがまん延し、流死産や奇形子牛の娩出が増えるだけでなく、持続感染牛からの産子も持続感染牛となるため、感染が拡大してしまいます。

☆ 牛アデノウイルス病

呼吸器症状がみられ、季節に関係なく発生し、子牛の多発性関節炎にも関与していると考えられています。

☆ 牛ＲＳウイルス病

呼吸器症状、**乳量の著しい減少**がみられ、**流産**が起こることもあります。**細菌の二次感染で重篤化し、死亡する例もあります。**

☆ 牛パラインフルエンザ

呼吸器症状がみられ、IBR や牛アデノウイルス感染症などとともに輸送熱と呼ばれています。

京都府南丹家畜保健衛生所　南丹市八木町木原北東庄 18
TEL：0771-42-3308(夜間は転送されます)　FAX：0771-42-5117